担当部局	心理学科

評価項目 1	**（ア） 体系的な履修を促す科目編成となっているか** **（イ） 開講科目数は履修登録者数、専任教員の担当状況から見て適切か**
参照資料	・開講科目・講義数の状況（科目区分別・3 カ年程度） ・単位修得要領（カリキュラムマップ） ・カリキュラムマップ集計データ（アセスメントブック） ・卒業時アンケート（経年比較） ・ALCS 学修行動比較調査（他大学比較・3 カ年） ・その他参照した資料（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

（ア）心理学科では、公認心理師法に定められた科目を中心に、科学的に人間の行動や心を理解するための方法論や、幅広くまた順序立てて心理学の知見を身につけることができるよう、体系的な履修を促す科目編成がなされている。現在、心理学科では改組に向けて、科目編成を様々な視点で検討しているところである。

（イ）心理学科専門科目について、科目群別非常勤比率（3 カ年程度）を確認すると、2019 年度は 73.0%、2020 年度は 75.9%、2021 年度は 77.9%であり、75%前後の割合で専任教員が担当しており、また履修人数も心理学科内で重要としているきめ細やかな指導がしやすい履修者数となっており、CAP 制における履修登録の上限を考慮しても、開講科目数は適性であるといえる。

【成果が上がっている点】

（ア)ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの関連をカリキュラムマップ集計データ（アセスメントブック）を確認すると、ディプロマ・ポリシーの「知識・理解」「汎用的技能」「思考・判断」の各項目がバランスよくカリキュラムに配置されており、体系的な科目編成となっている。

（イ)学生の履修に関連する満足度（卒業時アンケート「少人数・ゼミ形式の授業が充実している」「各授業の人数が適切である」）の結果から、一定の満足度を確認することができ、開講科目数の適切性を確認することができる。

【課題となっている点】

（ア)体系的な履修を促す科目編成であることは一定成果も確認することができたが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの関連では、ディプロマ・ポリシーの一部の項目がうまくカリキュラムに配置されておらず、偏りがみられる。これは実際にディプロマ・ポリシーとカリキュラムに関連がないのか、うまくカリキュラムマップに反映できていないのか、検証した上で学科として対応を進める。

（イ)特筆すべき事項なし。

担当部局	心理学科

評価項目 2	**各種アンケート結果等から見る、教育上で「成果があがっている点」・「課題となっている点」についての検証（※アセスメントブック検証結果から流用）**
参照資料	・卒業時アンケート（経年比較） ・ALCS 学修行動比較調査（他大学比較・3 カ年） ・ジェネリックスキル測定テスト結果（1→3 回生の伸長・3 カ年） ・アセスメントブック ・授業アンケート結果（学位プログラムレベル・3 カ年） ・大学院アンケート ・その他参照した資料（　　　　　　　　　　　　　　　　）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

心理学科では、心理学に関する知識や理解に加えて、数的データを分析し、そこから批判的・合理的な思考を展開できる能力の育成に取り組んでいるが、その成果として、卒業時アンケートの【満足度】「Q3-5.専門的な知臓が身につく授業の多さ」において「当てはまる」が 88.2%、【修得度】「Q2-17.数理的思考力とデータ分析・活用能力」において「当てはまる」が 52.9%、【修得度】「Q2-22.情報通信技術やオフィスソフトを活用できる能力」において「当てはまる」が 68.6%と他学科と比べて高い。

　一方、DP の「組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。」や「適切なリーダーシップを発揮できる」については、ALCS 学修行動比較調査の【成長実感】「40.リーダーシップ」において 0.15(2021 年度)、【成長実感】「46.プレゼンテーションを準備し発表する力」において 0.97(2021 年度)、【成長実感】「52.自分を律して行動する力」において 0.68(2021 年度)、と極めて低い。これは、対人関係に受動的で慎重な態度を持つ学生が少なからず存在するためと考えられ、これらの能力に対応する指導のあり方を模索中である。

【成果が上がっている点】

上述のとおり、心理学に関する知識や理解に加えて、数的データを分析し、そこから批判的・合理的な思考を展開できる能力の育成に取り組んできた成果が伺える。

【課題となっている点】

「社会性・自律性」と「自律性」の習得度が比較的低い点については、授業にディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク等を今以上に導入に改善を目指す。

担当部局	心理学科

評価項目 3	**（ア） 成績評価、フィードバックは、シラバスに基づき、適切に実施されているか。** **（イ） 成績分布に偏りは生じていないか。**
参照資料	・成績分布（ＧＰＡ・得点）（科目群別・３カ年） ・ALCS 学修行動比較調査（対象設問） ・その他参照した資料（ ）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

（ア）ALCS 学修行動比較調査の【満足度】「69.学んだ成果に対する評価のされ方」において 2019 年度は 1.05(大学平均は、1.08)、2020 年度は 1.08(大学平均は、1.06)、2021 年度は 1.07(大学平均は、1.27)であった。成績評価やフィードバックは、ほぼ適切に実施されている。

（イ)成績分布（ＧＰＡ・得点）（科目群別・３カ年）より、成績分布に偏りは生じておらず、学科内においては問題ない状況といえる。複数開講科目の成績分布の偏りについても学科内で検証を進め、成績評価基準の共有等を実施し、成績分布の偏りがないよう取り組みを進めていく。

【成果が上がっている点】

（ア)特筆すべき事項なし。

（イ)特筆すべき事項なし。

【課題となっている点】

（ア)特筆すべき事項なし。

（イ)全ての受講生が教育目標に到達していたら（あるいは、していなかったら）、当然成績分布に偏りが生じる。偏りの有無で成績評価の適切性は判断できないため、より適切な成績評価の適切性の指標を検討する必要がある。

評価項目 4	**（ア） カリキュラム上主要な科目には専任教員を配置しているか。** **（イ） 非常勤比率の高いカリキュラムとなっていないか。**
参照資料	・授業担当一覧 ・科目群別非常勤比率（3 カ年程度） ・その他参照した資料（ ）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

（ア)授業担当一覧を確認すると、特に心理学科で主要科目と位置付けている科目について、専任教員を

担当部局	心理学科

配置している。また、非常勤比率を確認すると、他学科専攻と比較しても低い傾向であり、専任教員の配置は適切であるといえる。

（イ)科目群別非常勤比率を確認すると、心理学科では非常勤比率 22.1%となっている。これは過去２年間とほぼ変わらない状況であり、他学科・専攻と比較しても大きく変わらない傾向となっている。以上より、適正な非常勤比率のカリキュラムとなっているといえる。

【成果が上がっている点】
（ア)特筆すべき事項なし。

（イ)特筆すべき事項なし。

【課題となっている点】
（ア)特筆すべき事項なし。

（イ)特筆すべき事項なし。

評価項目 5	**学科・専攻等個別の FD 活動について、どのような内容・目的で実施しているか。**
参照資料	・FD の取り組み状況 ・前年度点検シート ・その他参照した資料（　　　　　　　　　　　　　）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】
心理学科では、学科会議で課題や重点事項を共有した後、当該年度の FD のテーマを設定し、継続的に FD を実施している。具体的には「学生のニーズを把握した質の高い心理学教育構築のための調査結果の検討と総括」が課題として挙げ、ＦＤを実施した。
今後は、改組に伴うカリキュラム改編を見据え、3 ポリシーやカリキュラムの検討に関する FD 研修や学科内でのワークショップを実施したい。

【成果が上がっている点】
過去数年間にわたり実施してきた調査結果や公認心理師養成課程対応カリキュラム一期生の進路状況等の検討から、学生の満足度・学習成果の水準は総じて高めであるが、学生のニーズは公認心理師教育に限らず多様であることが改めて示され、改組や新カリキュラムに向けての方向性が共有された。

担当部局	心理学科

【課題となっている点】
特筆すべき事項なし。

評価項目 6	**（ア） 職位、年齢、性別のバランスに配慮した教員組織編成をおこなっているか。** **（イ） カリキュラムに基づく教員組織となっているか**
参照資料	・教員組織編制方針 ・専任教員の状況 ・その他参照した資料（ ）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】
（ア)心理学科の教員組織編成は、2019 年度は 40～49 歳が 25%、50～59 歳が約 37.5%、60～69 歳が 37.5%、平均年齢 56.5 歳となっており、教授の比率は約 50%であったが、2021 年度には、40～49 歳が 25%、50～59 歳が約 37.5%、60～69 歳が 37.5%、平均年齢 53.2 歳、教授の比率は 62.5%となっており、ある程度の改善がなされた。また、女性の教員は 3 名、男性の教員は 5 名であり、大きな偏りはなく、性別のバランスに配慮した教員組織となっている。

（イ)カリキュラム・ポリシーを踏まえ、心理学科に必要な領域の教員がバランスよく在籍する教員組織となっている。

【成果が上がっている点】
（ア)2020 年度の教員採用については、職位、年齢、性別のバランスに配慮した人事を行うことで、バランスの取れた教員組織の編成となった。

（イ)特筆すべき事項なし。

【課題となっている点】
（ア)改組に向けた新規教員の採用において、30～39 歳の講師あるいは准教授の採用を検討する必要がある。

（イ)特筆すべき事項なし。

担当部局	心理学科

評価項目 7	**教育活動予算において実施している活動は、その目的に対してどのような成果をあげているか。**
参照資料	・教育活動予算の執行状況 ・その他参照した資料（ ）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

心理学科においては、予算額 906,000 円に対して、執行額 863,443 円（執行率 95.3%）と教育活動予算を十分に活用している。2021 年度の教育活動予算は、経常的な消耗品に加えて、心理演習で用いる箱庭や発達検査等の補充に予算を重点的に活用した。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし。

【課題となっている点】

日々の教育活動への予算執行が大半となり、課題や重点事項にまで十分に予算が配分できていない。心理学科の課題や重点事項へ予算が充当できるような学科運営を検討・実施する必要がある。

実施責任者からの具体的な向上･改善施策（案）

具体的な向上･改善施策（案）について
体系的な履修を促す科目編成のためのディプロマ･ポリシーとカリキュラムの関連についての検証と対応。授業に占めるディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク等の割合強化による｢社会性･自律性｣と｢自立性｣の習得度の改善。 より適切に成績評価するための指標の再検討。学科の課題や重点事項へ予算が充当できるような学科運営の検討･実施。